

To Office of Experimental
Planning and Coordination

Date 2003/01/20

MACHINE TIME EXECUTION

REPORT (2002-4-2 CYCLE)

Experimental Group	T523	Reporter	歳藤利行
Scheduled Period and Shift	12月13日 17:00~15日 17:00	Main, Sub, Para	

Experimenters 星野香 歳藤利行 伴尊行

SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS

de/dxによる π/μ IDのため、鉛ダンプを置きその下流にエマルションプレートと厚さ1mmの鉛板を交互にはさんで真空パックしたモジュールを設置した。10,11月照射時のデータをもとに鉛ダンプの厚さを58cmとした。

2日かけてシンチレーションファイバー・ブロックを使用し、ビームのプロファイルが10,11月照射時を再現していることを確認した。

最終日に実際のエマルション・モジュールを設置し、本番のビーム照射(400スピル、30分程度)をした。今回は10月に比べてエマルション・モジュールの厚型部分の枚数を11枚から32枚に増やすことで $\pi\mu$ ストップ事象を3倍得られるようにした。

照射後のモジュールは名古屋大学F研で現像し、予定したトラック密度でうまく照射できたことを確認した。

EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.

IT $\pi 2$

COMMENTS

10月照射の厚型エマルションの最下流のプレートの現像を名古屋大学にて行った。1cm四方のスキャンの結果、 $\pi\mu$ ストップ事象を10例程度検出することに成功した。これはほぼ予定通りの結果である。